

# 登録ボランティアが大活躍!!

(公財)川崎市国際交流協会には、11種類ものボランティアがあることをご存知ですか? (右表参照) 1,267人<sup>(※)</sup>の登録ボランティアの皆様が、1年を通じてさまざまなところで協力・活躍しています。

川崎市国際交流センターでの活動が多いのですが、ボランティアの種類や依頼内容によっては、川崎市内の公共施設や小中学校などに「出張ボランティア」をしていただくこともあります。職業上の専門的な知識や経験を生かしたボランティア「プロボノ」(P2下参照)が、当協会でもすでに活躍し、その数も徐々に増えています。

(※1,267人は延べ人数。複数種類のボランティアに登録している人もいます。)

登録ボランティア(人)			
通訳翻訳	321	ハローかわさき	6
日本語講座	90	やさしい日本語	18
一般	216	ホームステイ	172
保育	18	ホームビジット	71
国際理解教育支援	61	災害時	274
SIGNAL編集	20	(内128人が災害時翻訳)	(2015年7月現在)



「2014川崎国際多摩川マラソン」にて授賞式のボランティアをした外国人市民と、マラソンに参加した日本語講座受講者など



イベントの受付をする一般ボランティア「2015インターナショナル・フェスティバル inカワサキ」にて



ホームステイボランティア「2014豪・ウーロンゴン大川崎研修」にて

## 保育ボランティアを通じて国際交流

「保育ボランティア」の皆さんは、当協会主催の日本語講座・午前コース(毎火・金、午前9時50分～11時50分)



分)などの主催事業やそのほかのイベントの際、別室で受講者や参加者の子どもたち(1歳以上・未就学児)の保育をしています。

日本語講座の保育では、毎学期最初の1、2週目が特に大変です。相手はそれぞれの母語で生活していたり、初めてママ・パパと別れたりする1歳～4歳の子どもたち。しかも、生活環境や日本語の理解度、日本の滞在期間は

さまざまです。保育士資格・経験のあるボランティアの皆さんは、いろいろ工夫して子どもたちの気持ちを和らげ、子どもたちの保護者が毎回しっかり日本語学習に専念できるように、保育時間を充実させています。そして、学期の終わりには、泣き叫んでいた子どもたちも簡単な日本語を理解し、お友達と決まりを守って一緒に遊ぶことができるまで成長しているのです。

「保育ボランティア」に聞いてみました!

- 色々な国籍・文化背景の子どもたちの、それぞれの成長を見られるので、楽しいです。
- 私は日本語しか話せないのに、保育ボランティアを通じて世界の人たちとつながることができてうれしいです。
- 子どもたちの母親とは言葉の壁があるけれど、お互いの理解や子どもたちのために、話す機会を持っていきたいです。

## ちょっと気になるボランティア関連word

プロボノ

ラテン語で「公共改善のために」を意味するpro bono publicoの略。最初は弁護士など法律に携わる職業の人々が無報酬で行う、公益の法律家活動(「無料法律相談」など)を意味した。最近では、各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして、社会貢献するボランティア活動全般のことや、それに参加する専門家自身のことを指す。(出典:ウィキペディア)

## ルポ! 「2014ボランティア研修会」

協会登録ボランティアの相互交流と資質向上のため、毎年開催される「登録ボランティアのための研修会&交流会」。2015年3月14日(土)に開催された研修会には、約100名が参加しました。

今回の研修会の内容は、講演、2014年度協会事業内容紹介、姉妹都市の米・ボルティモア市への市民交流団報告(登録ボランティア・小島俊彦団長)、そして交流会でした。



講演は、東京学芸大学・国際教育センターの吉谷武教授による「学校での外国人児童生徒受け入れの課題 ～特別の教育課程はなぜ必要か～」。

吉谷先生は、少子高齢化が進むと同時に外国人市民が増え、さらに「多

文化」化していく日本社会について、「ボランティア」と「外国人児童生徒」の2点についてお話になられました。

「地域でボランティアをするとはどういうことか」について、先生が九州で立ちあげられた「日本語を介して交流するボランティア教室」を具体例に話されました。定住外国人が増える今大切なのは、国籍にかかわらず地域社会と一緒に作るために何が出来るかを考えること、そして、互いに「関わりを持つこと」のことでした。

吉谷先生のお話はたいへん興味深く、その後のランチ交流会でも、ボランティア同士で話題となりました。ボランティアとして外国人市民や子どもたちの支援について考え、自分たちの活動や気持ちを振り返ることができました。また、学校や地域が一体となって外国人市民をサポートし、ともに生活していくことについて改めて深く考えさせられました。

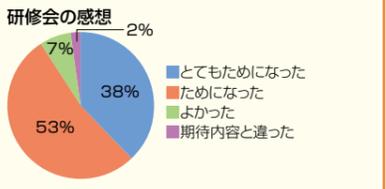
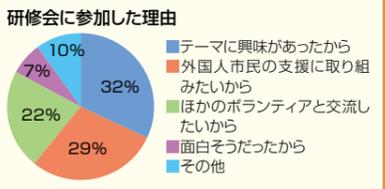
私たちのボランティア活動も、日々試行錯誤です。このように勉強する機会、協会の登録ボランティア同士が話し合う機会は大変貴重で、共通の興味を持っている方々との交流は



刺激になりました。国際交流・異文化理解もいろいろな形があるでしょうが、未来ある子どもたちのためにできることをしていきたいし、どんどん関わっていききたいと思いました。

(取材・文:編集ボランティア・青柳尚子)

### 「ボランティア研修会」アンケートより



吉谷先生の講演内容に  
 東京学芸大学国際教育センター HP <http://crie.u-gakugei.ac.jp>  
 文部科学省初等中等教育局国際教育課(CLARINET) [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003.htm)

## こんなボランティアもあります! 長年にわたる、館内でのフラワーアート活動に対して感謝状!

去る4月11日(土)、「館内美化活動感謝状」が、当協会山田長満会長(中央)より、「川崎市フラワーデザイン協会」の3名(左から長谷川紫穂・栗谷嶺紅・島崎蓉子)と「青蘭流(川崎支部)」の1名(伊藤紅華)に贈られました。川崎市国際交流センター内の4か所に、ボランティアで季節感あふれるフラワーアートを飾ってくださっています。

